

# Swiss Skyline

Eiger . Mönch . Jungfrau

Schilthorn  
Piz Gloria

## ギンメルヴァルト – 今と昔



ギンメルヴァルトは、標高 1367 メートルのラウターブルンネン溪谷に位置する、自然のままの山岳農村です。約100人の住民が、自然や家畜と密接にかかわりながら暮らしています。この絆は、愛情込めて装飾されたシャレーやチーズの貯蔵庫など、村全体で見て取ることができます。地元の農家では、農園や畑、庭で採れた自家製の野菜を直売しています。ギンメルヴァルトへは、シュテツヘルバルクやミュレンからロープウェイで行くことができます。ミュレンからギンメルヴァルトまで、歩行者と農耕用車両しか通れない狭い山道が続いています。



[www.schilthorn.ch](http://www.schilthorn.ch)

## 歴史

- 1300～1400 年 ヴァルサー大移動と呼ばれる時期に、ラウターブルンネン溪谷後方へ、レッチェン溪谷から人々が移住。古い文献では、ギンメルヴァルトとミューレンの住民を「Lötscher」と呼んでいます。
- 1346 年 ギンメルヴァルトについての最も古い記述のひとつは、ヴァレー州ニーダーシュテルン出身のペーター・ツム・ターメ男爵が、ラウターブルンネン溪谷の領地をインターラーケンの修道院に売却したときの書類にあります。
- 1638 年 ツヴァイユッチェンの南にある「シュメルツィ」に高炉を建設。鉄鉱石は、主に Kriegsmahd の上、ロツタル氷河の南にある Dürlocherhorn で採掘され、その後、そりや荷車で Schmelzi に運ばれ、加工されます。  
この炉は現在でも、ラウターブルンネンとツヴァイルリュツツインの間にあるリュツツインの右岸の川沿いのハイキングコースで見ることができます。採掘は、1715 年まで続けられました。
- 1705～1805 年 Trachsellaenen で鉱山運営開始。銀を含むガレナイトと亜鉛鉱石が、いくつかのシャフトで採掘・処理されています。  
高炉は、1931 年に雪崩で破壊されました。残っている遺跡は、今でも Trachsellaenen で見ることができます。
- 1700 年以降 亜麻や雑穀を栽培。紡績と製織業を開始。18世紀になってジャガイモ栽培が始まりました。第二次世界大戦が終わるまで主食として使われ、現在でも農家の人々に食されています。
- 1789 年 ギンメルヴァルトに生徒数20人の学校を開校。
- 1869 年 ホテル・シルトホルン建設。
- 1871 年 哲学者フリードリヒ・ニーチェと妹が、夏季休暇中にホテル・シルトホルンに滞在。  
黎明期の観光業が村の収入になりました。ミューレンのホテル建設に使われる砂利は、セフィネンリュツツネから採取され、袋に入れられてミューレンに運ばれました。1 回の積み込み賃金は1スイスフランでした。山岳ガイドやポーターの需要が高まりました。賓客はセダンチェアでシルトホルンまで運ばれる。
- 1890 年 ベルナー・オーバーランド鉄道(BOB)が開通し、インターラーケンとラウターブルンネン/グリンデルワルド間を運行。
- 1891 年 ラウターブルンネンとミューレンを結ぶケーブルカー(BLM)が開通。
- 1965 年 シルトホルン・ケーブルウェイが、ギンメルヴァルトへの交通手段となりました。これにより、地域住民の生活がより便利になり、観光業が活性化され、レストランや休暇施設に多くの観光客が訪れるようになります。住民は遠いインターラーケンまで出勤し、見習い中の若者たちは毎晩家に帰ることができるようになりました。村の子供たちは、ラウターブルンネンの学校に通えるようになりました。この人口移動と減少により  
村が絶えてしまうのではないかと心配されました。